

フィールドパートナー 自己紹介カード

「フィールドパートナー」とは フィールドワークパートナーの略称。

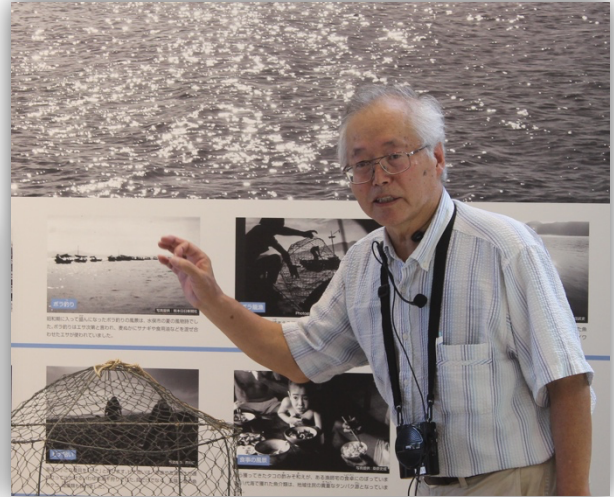
水俣・芦北地域のフィールドで、史実に基づいて解説し、来訪者とともに考察します。

社会課題を自由に考えることを妨げない案内を心がけています。 since2011

名 前/^{にし いずみ}西 和泉 出 身/岐阜県土岐市

所 属/一般社団法人環不知火プランニング

特 技/人の話を聞く、物忘れがよい



なぜフィールドパートナーをされているのでしょうか

数十年前石牟礼道子の「苦界浄土」を読み、水俣のニュースを見聞きし、患者とその背景に関心を持ち、チツソの一株株主になり、株主総会に参加しました。海外の NGO で農業プロジェクトを担当していたときには、近代や工業とどう向かい合っていくか検討材料として水俣病のビデオを使ったこともありました。十数年前、隣の出水市に引っ越し、つてを通じて水俣病の学習や教育の仕事に再会しました。水俣病のみならず、他の社会問題に関心を持ってきたため、水俣で患者や関係してきた人たちから学び、それらを他の人、特に若い世代に伝え、やり取りしていきたいため、今の活動をしています。

若い人たちは、水俣から何を学んでほしいと思いますか

生の患者や関係者のことば、選ばれた展示物から水俣病の歴史といまとのつながりの一端をつかみ取ってほしいと願っています。自分なりの社会問題への入口を見つけたいと思っています。ものがあふれるようになってきた一方で、そのひずみが増し、将来の見通しも決して明るくないいま。水俣病が投げかけてきた光と影を学ぶことは、みなさんにとって、今後の道標の一助になる気がします。まずは何が起こったのか、その原因や取り巻く状況に目をやってほしい。その作業の中から自分なりの糸口をつかんでもらえればうれしい。水俣に来たのは、学校や外から与えられた機会であれ、楽しんでほしい。ふだん見られないもの、聞けない生の話はおもしろいと思います。水俣でお待ちしております。